

◆ コスモエネルギーホールディングス（証券コード：5021）

2022年度 第一四半期決算 アナリスト・機関投資家向け決算説明会 質疑応答

---

－本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。末尾に注意事項を記載しています。－

1. 日時 : 2022年8月10日（水） 18時00分～19時00分
2. 出席者 : 75名
3. 主な質疑内容 :

Q1：1Q実績は順調に進捗しているとのことだが、在庫影響除き経常利益の計画比での進捗状況及びその要因について教えてほしい。また、7月以降の市況トレンドについても教えてほしい。

A1：1Qは、主としてマージン環境の恩恵を受けた石油事業で上振れが発生した。

4品マージンの単価としては計画比+5.8円/L上振れたことに加え、JET、LSC重油を中心とした四品外の収益も好調に推移した。その結果、マージンで計画比約300億円程度プラスとなった。一方、経費等ではLNGや電力などのエネルギーコストの増加が想定以上だったことに加え、定修の引当金計上、円安影響などにより100数十億円の下振れも発生している。これらをネットした上振れ幅としては約150億円強となる。

7月以降の市況について、国内はマージンが安定し引き続き良好な環境が継続するとみている。海外については、国内外の同業他社の製油所稼働率が上昇していると聞いており、市況も沈静化しつつある。どの水準でバランスするかどうかは見通しづらいが、コロナ禍以前の水準に向かって緩やかに収束していくとみている。

Q2：石油事業でエネルギーコストが上振れているとのことだが、LNGについてはどのような用途で使用しているのか、もう少し補足してほしい。また、現在のLNG価格の水準が継続した場合、通期で下振れ要因となる可能性があるのか教えてほしい。

A2：LNGについては製油所の加熱炉や発電機の燃料として使用している。LNG、電力価格の動向は不透明なため、今後の影響については注視が必要。

Q3：7-8月の海外市況は落ち着いてきているが、現状でも会社計画と比較してまだ高いとみて良いか。

A3：会社計画と比較するとまだ高い状況。

Q4：4-6月の海外市況の上昇影響について、ショートポジションであっても恩恵を受けられたのか教えてほしい。

A4：当社はショートポジションのため、他社と比較すると余剰生産力が少なく、他社比では市況の恩恵が少ない。ただし、JETやLSC重油については海外市況が上昇すればプラスの影響が出ることに加え、一部軽油の輸出も実施している。また、LSC重油については、IMO規制への対応により供給能力を充実させてきた。

Q5：直近で開示している主要株主の異動に関するお知らせについて、翌日に取り消しをされた背景について教えてほしい。

A5：当初、共同保有者として一括りにした上で主要株主と捉え、一定の比率を超えていたため、主要株主の異動に関する開示を行った。一方、主要株主を一括りにせず個別にカウントするという考え方のもと対応しているケースもあり検討した結果、取り消しを行うべきと判断した。

Q6：1QのSDベースにおけるトッパー稼働率が前年比で4%ほど低下しているが、その要因と損益への影響について教えてほしい。

A6：1Qの稼働率はSDベースで95.9%となり、千葉製油所でのトラブルにより稼働率が低下した。損益影響としては30億円程度の減益要因となった。

Q7：石油開発事業の生産量が前年比で若干減少しているが、状況について教えてほしい。

A7：前年比99.4%と概ね前年並みだったが、合同石油において1月に実施した配管の交換作業により約2週間、生産を停止した結果が影響している。アブダビ石油、カタール石油については前年比でプラスとなっている。

Q8：石油事業の計画比について、150億円程度の上振れだったとのことだが、タイムラグの影響額を教えてほしい。

A8：計画比では約100億円程度の影響となる。

Q9：製油所でLNGを使用しているとの言及があったが、全ての製油所でLNGを使用しているのか。

A9：当社の3製油所のうち、堺製油所と四日市製油所にてLNGを導入している。堺製油所では環境規制上、重油を使用できないため、加熱炉の補助燃料としてLNGを使用している。

Q10：クリーンエネルギー拡大への取り組みについて利益規模や時間軸の観点で考え方を教えてほしい。

A10：SAFの推進についてはIATAの規制、国内航空会社の動静を踏まえると、導入は必然の流れと捉えている。収益規模についての言及は難しいが、将来必要となる次世代エネルギーとして推進していく。一方で水素、アンモニアについては未だ実証事業の状況のため、事業化という点ではSAFと比較すると少し後になると見込んでいる。

クリーンエネルギーの展開については、当社は既に再生可能エネルギーによる発電に取り組んでおり、将来のFIP、PPAを見据えた上でマネタイズできると考えており、EVやグリーン電力をパッケージ化したコスモ・ゼロカボソリューションに取り組んでいる。

Q11：1Qの計画比について、石油化学事業の進捗を教えてほしい。

A11：価格要因などにより10億円強の上振れとなりほぼ計画通りの進捗となる。

Q12：通期の業績予想に対してこのまま上振れが継続した場合、株主還元の考え方を教えてほしい。

A12：現在、在庫評価の影響を除いた純利益の50%の還元方針をお示ししている。来年以降の還元については次期中計の議論の中でお示しをしたい。

以上

本書の記述及び記載された情報は、将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から判断した見通しによるものです。このため、実際の業績は、様々な外部要因により、本書に記述および記載された情報とは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。